

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

医療現場リアル No.1

医師の「当直」を知る —— 夜間救急・多職種連携・疲弊の構造をリアルに読む

★ 清光学院の講師は、大学病院・市中病院で実際に当直・救急対応を経験してきた現役医師・元医師です。教科書には載っていない「夜間救急の現実」「多職種連携の摩擦」「医師の疲弊構造」を当事者として知っています。その経験が、この講座の設計に直接反映されています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医師の働き方・医療現場の課題を問う小論文

医学部の小論文では「医師の長時間労働問題」「医療崩壊の原因」を論じる問題が頻出である。当直の実態を具体的に知っている受験生は、抽象論ではなく現場の論拠で答案を組み立てられる。

② チーム医療・多職種連携を問う問題

「あなたはチーム医療についてどう考えるか」という設問は、医学部推薦・総合型選抜の定番である。多職種連携の現実を知っている受験生は、机上の理想論ではなく実践的な視点で答えられる。

③ 医師志望動機・面接での「医療の課題」質問

「医療現場の問題点は何だと思うか」という面接質問に、当直の実態から答えられる受験生は、試験官（現役医師・医学部教員）に深い関心と理解があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	医師の働き方改革・医療崩壊を論じる問題	当直の実態が現場の論拠として答案を強化する
医学部推薦・総合型選抜（書類）	チーム医療・多職種連携への考えを問う問題	現場の実態を知ることで理想論から脱した答案になる
医学部面接（全般）	「医療の課題は何か」「医師の仕事の大変さは」	当直・救急の具体的知識が試験官に刺さる
地域枠・地域医療推薦	地域医療の現状・医師不足の問題	当直体制の実態が地域医療問題と直結する

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「チーム医療が大切だと思います」「医師の働き方改革が必要です」という答案は、医学部入試の採点者には「誰でも言える言葉」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）当直・夜間救急の具体的な流れを自分の言葉で語る、（2）多職種連携の「現実の摩擦」を踏まえた論述ができる、（3）面接で医療課題を現場の視点から語る、という変化が起きる。

医療現場を知る清光学院の講師陣は、医学部入試で「理想論だけの答案」と「現場の実態を踏まえた答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。